

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立白幡中学校) 学校番号 208

【様式】

学校教育目標	(知) 主体的に学ぶ生徒 (徳) 正しく判断できる生徒 (体) 心身を鍛える生徒
目指す学校像	生徒が夢や希望をもって主体的に学び、豊かな自己実現を目指すよう、教職員がきめ細かく支援する学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

重点目標	1 「教える」から「生徒が主体的に学ぶ」授業へ改革することにより、真の学力を身に付けさせる。 2 校内教育支援センター「Sola(ソラ)る一む」の環境を整備すると共に、心の通い合う温かい学校づくりを推進する。 3 学校運営協議会に生徒の意見を取り入れると共に、本校教育活動の情報発信を拡大・充実させる。 4 生徒が安全・安心に過ごせる環境を整備し、利便性の高い教育環境(ICT環境を含む)の充実を図る。 5 教職員の輪を充実させると共に、若手教員の人材を育成し指導力の向上を図る。
------	--

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					学校運営協議会による評価			
年度目標			年度評価			実施日令和8年2月20日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃され、学びの質の向上が求められている。 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査において、全国や市平均に比較し良好である。 <課題> ○市教委の研究指定「グローバル社会で活躍できる人材」の2年目であり、「理想の学校像」に向け、学年ごとに「教える」から「主体的に学ぶ」授業実践を研究しなければならない。 ○全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的な回答割合(64.1%)が、全国平均(66.3%)を下回っている。	○学びのポイント「じ・し・ゃ・く」で学習の質的向上を目指す ○R6 に設定した「目指す生徒像」の実現に向けた進路・キャリア教育の充実	○生徒が自らの学習状況を把握し、目標達成に向け努力する場面をつくるなど、主体的に学ぶ授業を実施する。 ○フォロアップタイム(放課後自主学習時間)を実施する。 ○自動採点システムを活用し、個に応じた課題を明確にして個別最適な指導を実現する。	○1,2年生のカリキュラムレポートについて、1060 時間以内に削減できたか(R6 は 1069 時間) ○学校評価(保護者)「分かりやすい授業にしていこうと努力している」の肯定的な回答が73%以上(R6 は 69.9%)	○1,2年生の教育課程を見直し、年度末までの授業予定時数を1059 時間とし、カリキュラムレポートを回避した ○学校評価(保護者)「分かりやすい授業にしていこうと努力している」の肯定的な回答が68.0%だった。但し「そう思う」の評価は、R6 は 22.5%だったのに対し、R7 は 24.0%だった。	B	○教育DXの本格展開を進めるため、R7.3 から導入される学習者用新型タブレットの導入及び運用と、ソフトウェアの活用について、校内研修等を行いながら円滑に進める。	・生徒が自ら課題を見つけ、主体的に学べるよう、さらなる工夫を求める意見。 ・防災教育での「3年生が1年生に教える活動」は双方に良い学びを生み、高評価。 ・進路・キャリア教育では、校長による授業・面談が成果として表れている。 ・タブレット導入は時代に合った取り組みであるとの評価。 ・「特に要望なし」という肯定的な意見もあった。
2	<現状> ○エンパワメントの視点をもって、誰一人取り残すことのない Well-being(幸せ)を保証する教育の実現を目指している。 <課題> ○年間15日以上欠席生徒は11.62%(R7.3)、「心と生活のアンケート」(R7.1 実施)における面接対象者は11.62%が該当している。 ○教職員が生徒の気持ちに寄り添った愛情ある声掛けを強化し、心温かく開かせ、個別的且つ特性に応じた支援をすることが求められる。	○Sola(ソラ)る一むの充実 ○個別的・包括的な生徒理解と支援の実現と計画的な教育相談活動	○教諭・さわ相・養護教諭・SC・SSW・SA等が生徒の情報を共有し、生徒理解に向け連携・協働する。 ○3類4層構造の教育相談を実践する体制を強固にする。	○積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織により、Sola(ソラ)る一むを運営できたか。 ○スクールダッシュボードのライフ・ログを活用し、生徒のリアルタイムな実態を把握して、指導を実現できたか。	○教職員間の情報共有により組織の風通しを良くし、連携して動ける体制を整え、Sola(ソラ)る一むを運営できた。 ○スクールダッシュボードのライフ・ログを午前中のうちに確認し、生徒の状態を適切に把握して、指導に活かした。	B	○おはようメーターの確実な実施を図るため、日課表を見直す。 ○生徒が、さまざまな取組に対して失敗を恐れずにチャレンジするとともに、時に失敗する自分や未完成の自分を認めることができるようにする。	・生徒をよく見ているとの評価が多数。継続した取組を期待。 ・タブレットを活用し、生徒と教員のコミュニケーションを活発にしようという意見。 ・アンケート結果から自己肯定感の向上が見られ、生徒理解の成果が評価される。 ・多様性尊重は重要だが、干渉しないよう相互理解の機会が必要との指摘。
3	<現状> ○生徒が意見を表明しやすい環境づくりと、学校運営や地域形成の一員として民主的で公正な社会を実体験できる場づくりが求められている。 ○昨年度から毎月学校公開期間を設定し、保護者や地域の方々に学校教育活動を公開している。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合(72.2%)が、全国平均(76.1%)を下回っている。	○生徒や教職員による地域の行事等への積極的な参加 ○学校運営協議会の充実	○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。	○「浦和区民まつり」「地元自治会の夏祭」「岸町小土チャレ」「避難所開設訓練」等の地域主催の行事に、生徒や教職員が参加できたか。	○「浦和区民まつり」「地元自治会の夏祭」「岸町小土チャレ」「避難所開設訓練」等の地域主催の行事に、多くの生徒や教職員が参加した。	B	○引き続き、地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加する。	・地域行事への参加が高く評価継続的な地域関わりを期待。 ・学校運営協議会への生徒参加は良い取組。自由な意見交換の場へ発展を望む。 ・教育活動の積極的な情報発信は評価された。 ・通学路の危険箇所調査を求める意見。 ・生徒の自主的なボランティア企画の推進を期待する声。
4	<現状> ○校舎が竣工して今年度で47年目を迎え、経年劣化による老朽化が見られる。 ○R8 から段階的に35人学級となる普通教室の増加を想定した教室配置を整備する。 <課題> ○昨年度策定した防災教育のカリキュラムに基づき、総合等の時間で学年ごとのテーマに目標達成に向け、指導を充実させる。	○教職員の連携による学校の安全管理の充実	○事務職員を通じて、毎月の安全点検であがった営繕要望の中から安全面を重視して修繕に係る優先順位をつけ、学校配当予算を計画的に執行する。 ○8月に備品点検を実施し、粗大ゴミ等を適正に廃棄する等、用務員等と協働して、校内の整理整頓を実施する。 ○生徒が南区避難所運営訓練に参加するなど、防災教育の充実を図る	○経年劣化による危険箇所を割り出し修繕の実施することで、安全・安心な教育環境の整備をすることができたか。	○経年劣化等による危険箇所を割り出し、防球ネットや給食室のスライサーや体育館及び非常階段の扉など6か所を修繕した。	B	○R8 年度から段階的に35人学級となることを踏まえ、学級数の増加を見据えて特別教室等を普通教室に変換する準備を行う。 ○防災アドバイザーや自治会等と連携を図り、引き渡し訓練の方法を見直すなど、中学校区の防災教育に係る小・中連携を強化する。	・安全で過ごしやすい学校環境を求める意見。 ・施設・設備は計画的に修繕が行われているとの評価。 ・小中合同の引き渡し訓練は効果的であり、継続を期待。 ・地域の高齢化に伴い、中学生が災害時に主体的に動ける意識づけの重要性が示された。
5	<現状> ○タブレット等を適切な場面で用いた効果的な授業の在り方について校内研修を重ねてきたことで、ICT を効果的に活用する教員が増えるなど、ICTスキル向上が見られる。 <課題> ○ICT を適切な場面で活用した学びを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。 ○若手の教職員の人材育成と職場環境の向上が求められる。	○ICT を効果的に用いた授業改善 ○若手教員の人材育成と職場環境の向上	○教育研究所の希望研修や他校の授業研究会に参加し授業力向上を図る。 ○若手教員を対象に、市の教育行政施策等に関する学習会を実施する。 ○ICT を活用した授業力の向上を図るため、校内で学び方改革推進担当を講師とする「白幡 PC カフェ」を年に5回程度開催し、授業力向上を図る。 ○今年度転入した教職員が、職員会議終了後に輪番で「危機管理スピーチ」を実施する。	○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に悩みや本音を分かち合える教職員はいますか?」の肯定的回答が60%以上(R6 は 50%) ○授業力向上に係る本校教職員の実践的な研修環境の構築	○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に悩みや本音を分かち合える教職員はいますか?」の肯定的回答が52%だった。 ○教職員の授業力向上を目的に教育課程指導課から講師を招いて研修を実施した。 ○2名のアシスタントティーチャーを受け入れ、効果的に学校運営に生かすとともに、人材育成をすることができた。	B	○中長期的な展望に立って、学校の中軸となる役割を担うミドルリーダーを計画的に育成する。 ○生成 AI や自動採点システム、Google Workspace などの円滑で効果的な利活用を進めるための校内研修を計画的に実施する。 ○「白幡 PC カフェ」やアシスタントティーチャーの積極的な受入を継続するとともに、教員同士がベテランも若手も相互に教え合う体制を構築する。	・市教委の研究活動への参加が、教職員の意識向上につながるの期待。 ・ICT 活用により授業力・職場環境の改善が進み、生徒と向き合う時間が増えるとの意見。 ・教職員が本音で語り合える小グループ協議の場の設定を提案。 ・教職員の負担軽減を求める声が多く、人員増加など職場環境改善を望む意見があった。